

【森のお話】
…コラム…

サルノコシカケのもうひとつの顔
ガンに効くというけれど…

森林総合研究所 東北支所 針葉樹病害チーム長
田端 雅進

●「サルノコシカケ」って
どんなもの？

「サルノコシカケ」というと皆さんはどのようなものを思い浮かべられるでしょうか？

写真―1は「ベッコウタケ」というキノコです。このキノコは、サラやニセアカシアをはじめ種々の広葉樹の心材を腐らせ、街路樹によく見られます。「ベッコウタケ」が生えた木は、風で折れたり倒れやすくなるので、注意が必要です。傘は半円形、扇形、扁平、しばしば多数重なって発生します。傘の表面は、はじめクリーム色、後に赤褐色、黒褐色で、周辺部は類白色です。写真―2は「キンイロアナタケ」というキノコです。このキノコは、エゾマツやカラマツなどの生木やサクラなどの枯木の地際部に発生し、近年、ヒノキの根株腐朽菌として恐れられています。基物の表面に平面的なキノコをつくり（背着生…はいちやくせい）、傘の色は、クリーム色、黄色、淡褐色、やや金属光沢をもつように見えます。これらはいずれも「サルノコシカケ科」に属しているキノコです。

こうして見るとずいぶん違うものですね。実は「サルノコシカケ」とは一種類のキノコではなく、一般に半円形から扇形の傘を持ち、木質で硬いキノコの総称なのです。「サルノコシカケ」と呼ばれているキノコの仲間は、七十一属六八一種が記載されています。

●食用にも薬にもなる
「サルノコシカケ」

ところで「マイタケ」というキノコをご存知でしょうか？「マイタケ」は、ミズナラやシイなど広葉樹の大木の地際や切り株から発生する食用キノコで、



写真-1 ベッコウタケ



写真-2 キンイロアナタケ

多くの料理に合いますが、特に「きりたんぼ」に代表される郷土料理に欠くことができないものです。見つけた人は嬉しさのあまり舞い踊ったため、舞茸という名前がついたとされています。実はこの「マイタケ」も「サルノコシカケ」の仲間に入ります。キノコです。また、同じ仲間に入る「トンビマイタケ」は、ブナの根元や切り株に群生する食用キノコで、秋田県では珍重され、特にお盆の頃は高値で取り引きされています。

このようにこの仲間は、食用キノコとして知られている他に、古くから漢方薬としてキノコが珍重されるものが多くあります。「カワラタケ」は、抗ガン作用が認められ、「クレスチン」という薬品名で利用されています。近年では抗ガン剤としての可能性の他に、ダイオキシンの分解に利用できるのではないかと期待が高まっています。

●「サルノコシカケ」の
もうひとつの顔とは…

ところで「サルノコシカケ」は、食用や薬とは別の一面も持っています。それは樹木病原菌としての一面です。枯れ木に生える場合は頼もしい分解者で、他の微生物が利用しにくい難分解性の木質成分（セルロース、ヘミセルロース、リグニン）を分解し、栄養として利用できる能力を持つていますが、生きた木にも生えるので大変です。

生きた木に生えると、その木を枯らしたり、その木を腐らせたりして木材の価値を著しく低下させます。

●ヒバを「サルノコシカケ」から
守るには

東北で今、最も問題なのは「モミサルノコシカケ」（写真―3）です。これは東北の代表的な樹種であるヒバの幹を溝状に陥没・腐朽させてしまうもの（ヒバ溝腐病…ヒバみぞぐされびょう、写真―4、5）です。この病気でヒバが枯れてしまうことはありませんが、材が腐朽するため木材としての価値が著しく低くなります。

ヒバ溝腐病の感染や分布拡大については現在鋭意調査中です。皆さんがヒバ林で「モミサルノコシカケ」を見かけることがありましたら、是非ご一報下さい。



写真-4 ヒバ溝腐病



写真-3 モミサルノコシカケ



写真-5 ヒバ溝腐病により腐朽した円盤